

西中の風

伊丹市立西中学校長
大西 規之

小さな事が、大きな事につながる

ゴールデンウィークもあっという間に過ぎてしまいました。1年生は本格的に部活動も始まりました。少しは学校に慣れたでしょうか。2、3年生は新しいクラスにも慣れ、勉強に部活動に目的意識を持って頑張り始めたのではないのでしょうか。

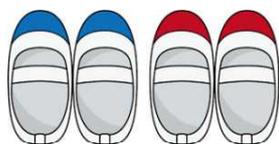
さて、第4号では「学習規律、学習環境の徹底」について、第5号ではその効果や必要性について書かせていただきました。本号ではさらにいろいろな資料から関連する話を4つ取り上げてみました。「そうだな」「なるほどな」と思った人は是非すぐに実践してみてください。

①有名な教育学者の話

「その学校の教育の程度を知るには、靴箱の前に立てばよい」と言われています。しかも、たった3秒で良いそうなのです。たった3秒でその学校の教育の程度が8割から9割2分くらいの見当がつくらしいです。急所の1点はどこかと言うと、それはその学校の生徒の靴箱です。靴箱を見ればわかるというのは、つまり、靴をそろえる習慣があるかどうかということです。

「しつけの3原則」とは、

- (1) あいさつ
- (2) ハイの返事
- (3) はきものをそろえる



この3つのことだけをしつければ、他のことはできるようになるとも言われています。なぜ、この3つが原則なのでしょう。

- (1) あいさつは、良好な人間関係を築く上で、もっとも基本的な行動です。
- (2) 返事は、相手を受け入れる行動です。「はい」の語源は「拝」。心がこもった返事と、情性で返された返事の印象は一目瞭然です。あいさつは自分からの投げかけ、返事は相手の受け入れ、この2つが人間関係の基盤となるのです。
- (3) はきものをそろえるとは、物事の締めくくりをきちんとすることに通じます。席を立ったら座っていた椅子を入れることも、同様です。

これは企業でも当てはまることで、はきものの乱れと、人材のレベルは比例していると感じます。新しい仕事、まったく文化の違う環境、プレッシャー、ハードワークで、クタクタに疲れて自宅に帰ったとき、子どもたちの小さなかわいい靴がピシッとそろっていることで、どれだけ気持ちが楽になったこと

でしょうか。

自分のはきものをそろえる習慣を身に着けよう。乱れているはきものを目にしたら、そっと、そろえよう。はきものをそろえることを習慣化できたら、なお良し！はきものをそろえるという小さなことが、大きな事につながります。

②いじめの無いクラスの特徴

（『いじめ』と闘う親と子を応援する本』より抜粋 少し表現を変えています。安川雅史著 中経出版）

- (1) 授業中整然として集中している。
- (2) 教室内がいつもきれいに整理整頓されている。

③高校サッカー優勝青森山田高校黒田 剛監督の話

選手たちの“変化”を見逃さない。「毎日、姿や表情が変わる。微妙な表情（の変化）を見て、軌道修正しないと。チームとしてガタツとなってからは遅い。子供たちの寝ぐせは注意しますよ。やる気を感じないですから。1人の寝ぐせがチーム全体にどう影響を与えるか、細かく（指導を）やっていく。全国優勝を狙うなら、すごく細かいことを話さないといけないですから。サッカーに勝つための教育が、監督生活22年で実った。

④33年ぶり甲子園に出場した市立尼崎高校硬式野球部竹本 修監督（講演会の中で）の話

プロ野球阪急（現オリックス）の元投手。入団1年目に1軍のマウンドを経験したが結果を残せず。2軍で過ごした末に戦力外通告を受け、球団職員を経て高校教師になった。球団職員として選手を見ていた時代を振り返り、「1軍から2軍に降りてきた選手は二通りに別れる。2軍で先頭に立って練習を引っ張る人、もう一つは愚痴を言い続ける人。1軍に戻るの前者のタイプだった」。その上で「その時になって初めて『俺は愚痴っていた方だな』と気づいた」と話し、野球に取り組む姿勢や普段の生活態度が、その後の成長をいかに左右するかを強調した。以上

みなさんも何が大事なのか、何からすべきなのか、よく考えて行動してみてください。



